

HARUO ISHISAKA
2006 EXHIBITION

●特別展
受贈記念

石阪春生展

同時開催/小磯良平作品選Ⅱ



石阪春生「番員たち」1938年
神戸市立小磯記念美術館蔵

2006 5月20日(土)ー7月30日(日)

- 入館料/一般700円(550円)、高大生500円(400円)、小中生300円(200円) ※()内は30名様以上の団体
- シルバー350円(65歳以上で神戸市すこやか手帳御持参の方)
- 休館日/毎週月曜日(ただし7/17は開館、7/18は休館)
- 開館時間/午前10時~午後5時(入館は4時30分まで)
- 主催/神戸市立小磯記念美術館・読売新聞大阪本社

- ★講演会 6月11日(日)午後2時~
「対談 石阪芸術を語る」
石阪春生氏(洋画家)/西村規矩夫当館館長
当館2階絵画学習室にて(定員80名)
※当日朝10時から受付で整理券を配付
- ★ロビーコンサート 7月8日(土)午後2時~
神戸市室内合奏団による

神戸市立小磯記念美術館



●特別展●受贈記念 石阪春生展



「作品B」1956年
神戸市立小磯記念美術館 蔵

詩想と装飾性に満ちた、『女のいる風景』連作の緻密な描写によって知られる、洋画家・石阪春生は、1929(昭和4)年、神戸市湊西区(現・兵庫区)で手広く製粉業を営む商家に生れます。そして戦中戦後の時代、兵庫県立第四神戸中学校(現・星陵高校)、関西学院大学へと進学する過程で絵画世界への興味をいだきに深め、関学では絵画部・弦月会に所属し、本格的に油彩画を描き始めています。また石阪は、小磯良平の親友で神戸を代表するモダニズムの詩人・竹中郁の甥にあたり、叔父の紹介で小磯に師事し、美術団体・新制作協会に所属する中、自らの芸術を磨いてゆきました。

さらに石阪春生は、タウン情報誌「月刊 神戸っ子」の表紙画を長年制作するなど、神戸市民にとって最も親しまれる画家の一人となり、兵庫県および神戸市の文化賞も受賞しています。そして、平成17年度には、神戸市立小磯記念美術館に50点の自作作品(油彩35点、素描4点、コラージュ11点)が寄贈されました。

このたび神戸市立小磯記念美術館で開催される特別展「受贈記念 石阪春生展」では、美術館への寄贈作品に、各地の代表的な作品を加えた70点余で、石阪春生の半世紀にわたる画業の軌跡をたどり得る展示を構成します。その初期の抽象画から、現在の詩的構想力に貫かれた具象画にいたるまでの、石阪芸術の展開をどうぞお楽しみください。



「ある騎手のすべりⅡ」1963年
神戸市立小磯記念美術館 蔵



「騎士の図表(1)」1966年
神戸市立小磯記念美術館 蔵



「青年の譜Ⅰ」1967年
神戸市立小磯記念美術館 蔵



「翼の城Ⅰ」1971年
神戸市立小磯記念美術館 蔵



「文字盤と二つの人形」1975年
関西学院 蔵



「メトロノーム」1976年
西宮市大谷記念美術館 蔵



「折れたランプ」1995年
兵庫県立美術館 蔵

会期中のイベント

- 講演会/「対談 石阪芸術を語る」 石阪春生氏(洋画家)/西村規矩夫当館館長
6月11日(日)午後2時～ 美術館2階絵画学習室にて(定員80名)
※当日午前10時より受付にて整理券を配付します。
- 美術館大作戦1/美術館を探検! 5/27(土)、6/3(土)、6/10(土)午後1時30分～4時
※小学3年生～中学3年生対象(各回定員20名)、要事前申込み(詳細はお問い合わせください)
- 解説会/毎週日曜日午後2時より(約30分)当館学芸員によるスライド解説
- アトリエ解説/開館日の午前11時、午後2時より(約20分)インフォメーションスタッフによる案内
※他イベント開催は時変更あり

次回展覧会のお知らせ

特別展「没後20年 荻須高德展」(展示室2・3)/小磯良平作品選Ⅱ(展示室1)
8月5日(土)～10月9日(月・祝)



美術館の地下には市営駐車場(有料)があります。